

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778前兆は、2008年7月初旬から出現しだし、既に継続期間が丸5年に達しようとする、過去例の無い長期前兆です（過去最長継続前兆は、2008年発生の岩手宮城内陸地震で、前兆期間＝3年3ヶ月）。

更に当該No.1778前兆には、極大が多数出現し、前兆変化から現在までに5段階の前兆群変化を示すなど、過去例には無い初めて体験する極めて特殊な前兆出現形態を示しています。

現在が第5ステージ前兆群である認識のもと、今までの前兆群ステージとは明らかに異なる形態から、最終段階である可能性が否定できず、現在の第5ステージ前兆群の変化から示される時期が、対応地震発生時期である可能性を考え、推定時期について検討を進めて参りました。

まず、第4ステージ前兆群から示された、4/28±時期について、4/24から複数観測装置に前兆が継続出現しましたが、4/28からCH23の基線幅増大BT前兆が出現しだしたこと、4/28にCH9に短時間ですが、連続BF (PBF) 前兆が出現したことから、4/28が第5ステージ前兆群の極大である可能性と認識して、推定時期を検討して参りました。

4/28極大認識とした場合には、3/24から出現しだした秋田観測点のA3A4観測装置の特異状態と、2/25から継続出現しだしたCH6(CH17)の特異状態を、各々前兆初現、先行特異初現と認識してみました。その結果として計算されたのが、7月初旬時期でした。

仮に7月初旬時期に対応地震が発生するのであれば、経験則から計算される前兆終息時期は、06月17日±となります。誤差を考慮して、発生が7/8±であった場合でも6/20±には前兆終息が確認できる可能性が示唆されました。

前兆は減衰傾向となりましたが、6/17±をはじめ前兆の終息は認められませんでした。

このことから、4/28を極大と認識する前述の解釈は、明らかに誤りであることが検証できました。

CH23の基線幅増大BT前兆が5/31で消滅して再出現が無いこと（CH16特異前兆も同様）、秋田観測点のA3, A4 特異も06月初旬以降は顕著な出現が無いこと、しかし、高知観測点のK6, K8の特異状態は継続出現している点々から、05月末時期に極大があると、前兆形態を説明しやすいこと気づきました。

05月末には、歯差変動が顕著な値を示したCH12が二つのピークを形成しています。これをツインピーク（お碗型）極大と認識しますと、5/31±が極大と認識でき、前述認識と調和します。

更に調査した結果、CH6にも5/30に特異状態が大きな変化となっているピークが認識でき、5/30-31に第5ステージ前兆の極大があった可能性が強く示唆されました。

そして、5/30-31 極大認識のもと、多数の観測装置に前兆が継続出現しだした、4/24を前兆初現と認識し、秋田観測点のA3 A4観測装置の特異状態初現、3/24を先行特異初現と認識しますと、現在の前兆形態を良好に説明できる可能性があります。

前兆初現＝4/24 先行特異初現＝3/24 に対し、極大＝5/30-5/31として前兆変化経験則を使用しますと、両者ともに08月05日±、08月07日±時期を示すことが計算できました。

更に2/25, 2/26から継続出現しだした、CH6, CH17の特異状態には、どちらも4/23に極大が確認でき、前兆初現～極大の関係から、経験則使用で、上と同じ、08月05日±、08月07日±が推定発生時期として計算できました。

04月28日が極大認識は誤りであり、7月初旬時期に対応地震発生の可能性は考え難いこと、前述の様な新たな認識の方が現在までの前兆変化を良好に説明できる可能性があること、更に当該認識を検証した調査等については、本日(6/21)までに、ファックスによる「地震前兆検知公開実験」参加者の皆様へは、実験観測情報で、日々報告して参りました。

PHP新書「地震予報」をお読み下さった読者の皆様への、本続報ホームページでは、報告が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

また、経験したことのない前兆形態とは言え、第5ステージ前兆群の前兆形態認識に違和感を覚えながらも、4/28極大認識のまま、推定発生時期を修正できず、現在に至ったこと、小生の不甲斐なさについて、深く深く陳謝お詫び申し上げます。

続報No.31＝実験観測情報No.2392 続報No.32, 33＝実験観測情報No.2393-1/2 2/2 を掲載させて頂きました。日々の実験観測情報をお読み戴いていない、公開実験参加者以外の皆様には、続報No.31～33が突然すぎて、判りにくいと思われましたため、解説の意味を含めて、本文を書かせて戴きました。

現在の認識理解が正しいか否かは、まだ確認できませんが、現認識理解のもと、今後の前兆変化を追い、検証、検討を続けていきたいと考えます。

今後も続報させて頂きます。

※尚、No.1778以外の別の大型地震前兆が観測されていても現状では地震前兆検知公開実験参加者の皆様以外には公表できる状態ではありませんので、公開できません。どうかお許し下さい。

原稿校了後の前兆変化について

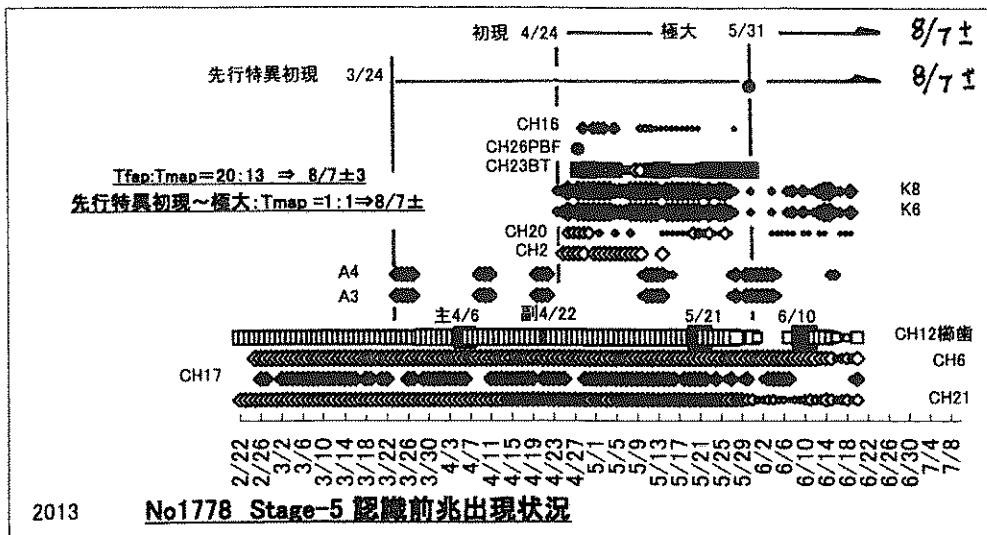
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報

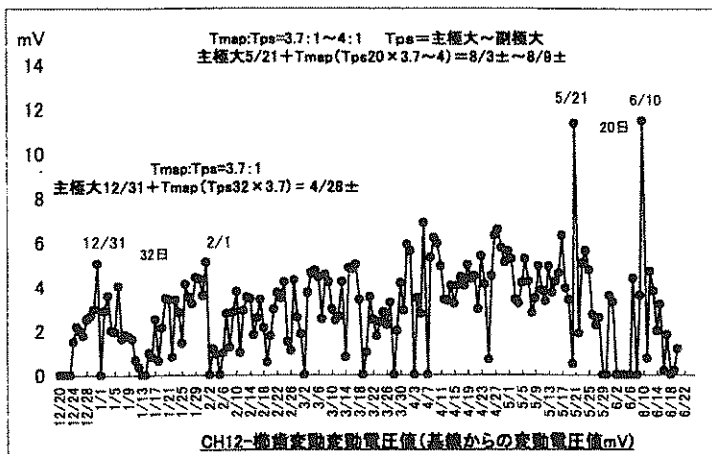
ステージ5 前兆群の前兆形態誤認識の可能性 7月下旬迄前兆継続し、8月上旬発生の可能性有

長期継続特殊前兆No.1778の続報です。今までの解析で、現在の第5ステージ前兆群の複数の前兆出現形態関係から、7月初旬時期が示される可能性を考えました。その場合、今月6月17~20日に前兆終息が確認できる可能性が計算されました。前情報

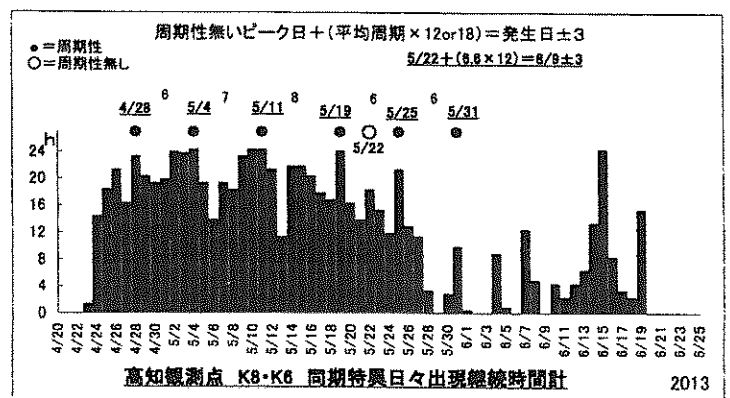
で報告のとおり、確かに前兆全体は減衰傾向にあります。しかし、CH21特異もCH6 特異も本日6/20夕刻時点で終息せず、また終息していたCH17糸状特異も再出現! このことから、現在の認識が間違っている可能性が考えられ、再考致しました。第4前兆群が示した4/28にCH9-PBF 短時間出現を極大の可能性と認識していましたが、4/28±は第5ステージ前兆群の初現時期を示していた可能性が有、CH23-BTをはじめ、A3A4特異等も5/31頃を境に消滅している点、CH12 歯歯前兆が過去に消が無い大きな変動値で5/21と6/10にピークを作っている点から、5/21-6/10-お腕型極大で中心の5/31が第5前兆群の極大である可能性を考えました。その場合、左図のとおり、複数前兆が出現した4/24を初現、A3A4特異初現を先行特異初現としますと、両者から8/7±が示されます。また前兆の周期性についてですが極大以降の周期性は6or9倍値で発生時期を示しますが、極大前に周期性変化がある場合は、12or18倍値で発生日を示す過去例有。今後、他に発生時期を示す変化が無いが、前兆継続等を鑑みて、更に検討続行します。



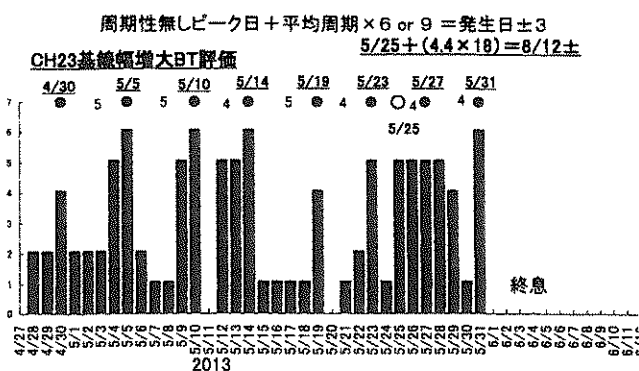
2013 No.1778 Stage-5 認識前兆出現状況



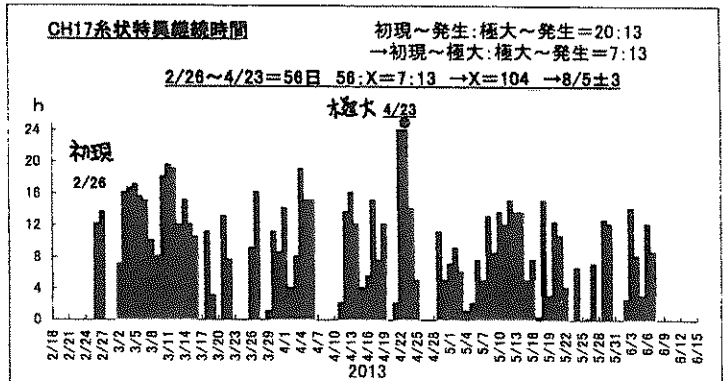
CH12-歯歯変動電圧値(基線からの変動電圧値mV)



高知観測点 K8-K6 同期特異日々出現継続時間計 2013



CH23基線幅増大BT解像度



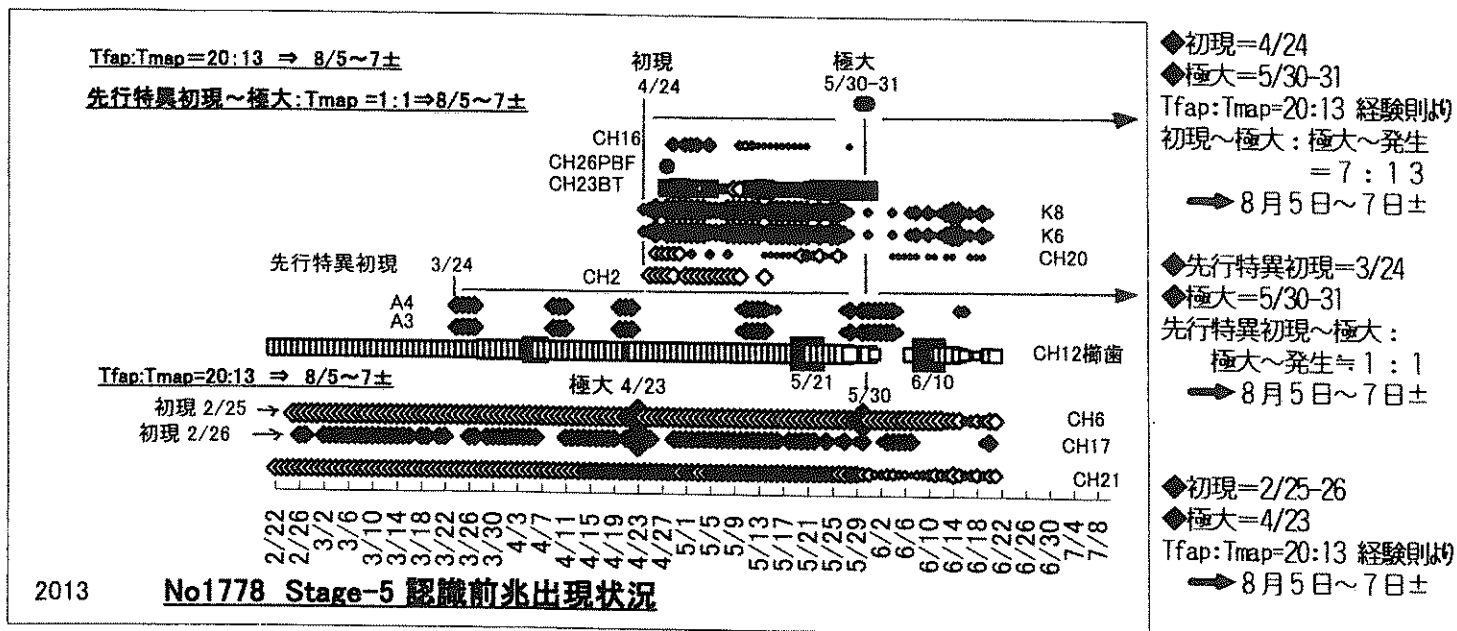
CH17糸状特異継続時間

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報

ステージ5 前兆群新認識 No.2392 観測情報の検証 8月上旬発生の可能性示唆される



長期継続特殊前兆＝No.1778の続報です。現在の第5ステージ前兆の認識解釈について、4/24から多数観測装置に出現した前兆について、CH23-BT, A3A4特異が5/31前後で止まっている点、K6K8特異が現在も継続している点から、4/28極大認識が誤りであることが明らかと考えます。

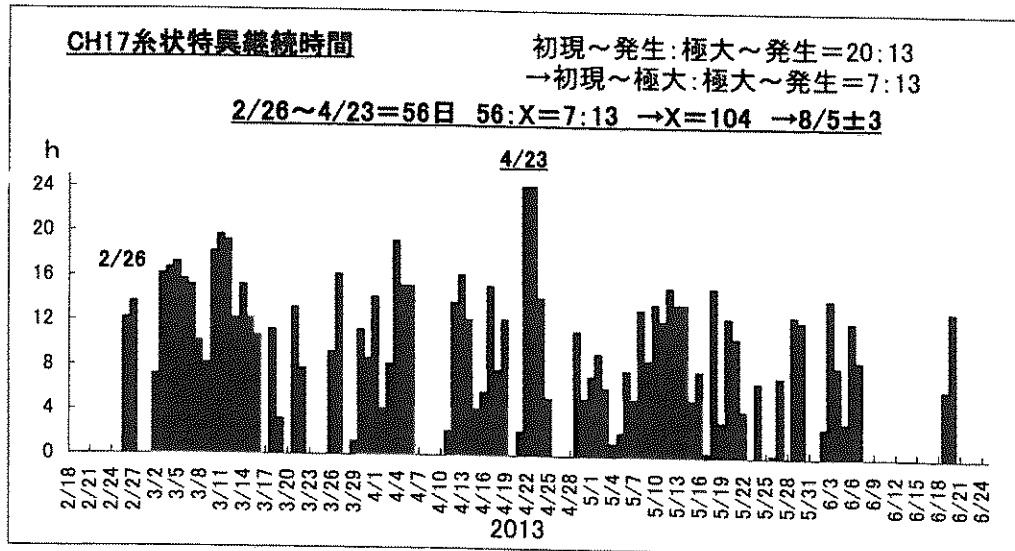
5/21と6/10に過去最大値の櫛歯前兆ピークを捉えたCH12を、ツインピーク（お碗型）極大の可能性と考え、中心の5/31±を極大と認識しますと、現在の前兆形態が理解しやすいことになりました。

4/24からの多数前兆出現を5/31±極大に対する前兆初現とし、

3/24からのA3A4特異出現を5/31±極大に対する先行特異初現と仮定しますと（経験則を使用）どちらからでも、8月上旬時期が示されること等を、No.2392観測情報で報告させて頂きました。

本日6/21夕刻現在、まだCH6, CH21特異等顕著に継続出現中であることから、少なくとも07月上旬発生の可能性は否定されません。つまり4/28極大認識は誤りであることが確認できました。

No.2392情報で、CH17糸状特異の変化については文章で記しませんでした。2/26から突然出現し、4/23に最高値ピークを作っていること、周期性変化が良く見えないこと等から、初現～極大経験則で見てみました。その結果、前述と同様の8月上旬を示しました。（左図参照）



皆様も既にお気づきと思いますが、CH17が初現～極大型で出現しているのであれば、CH17初現と同じ時期2/25から継続出現したCH6についても同様に特異状態に極大変化が認められていなかったかと云う疑問が生じます。

日々顕著な大きな変動を記録している、CH6特異を改めて見直してみました。

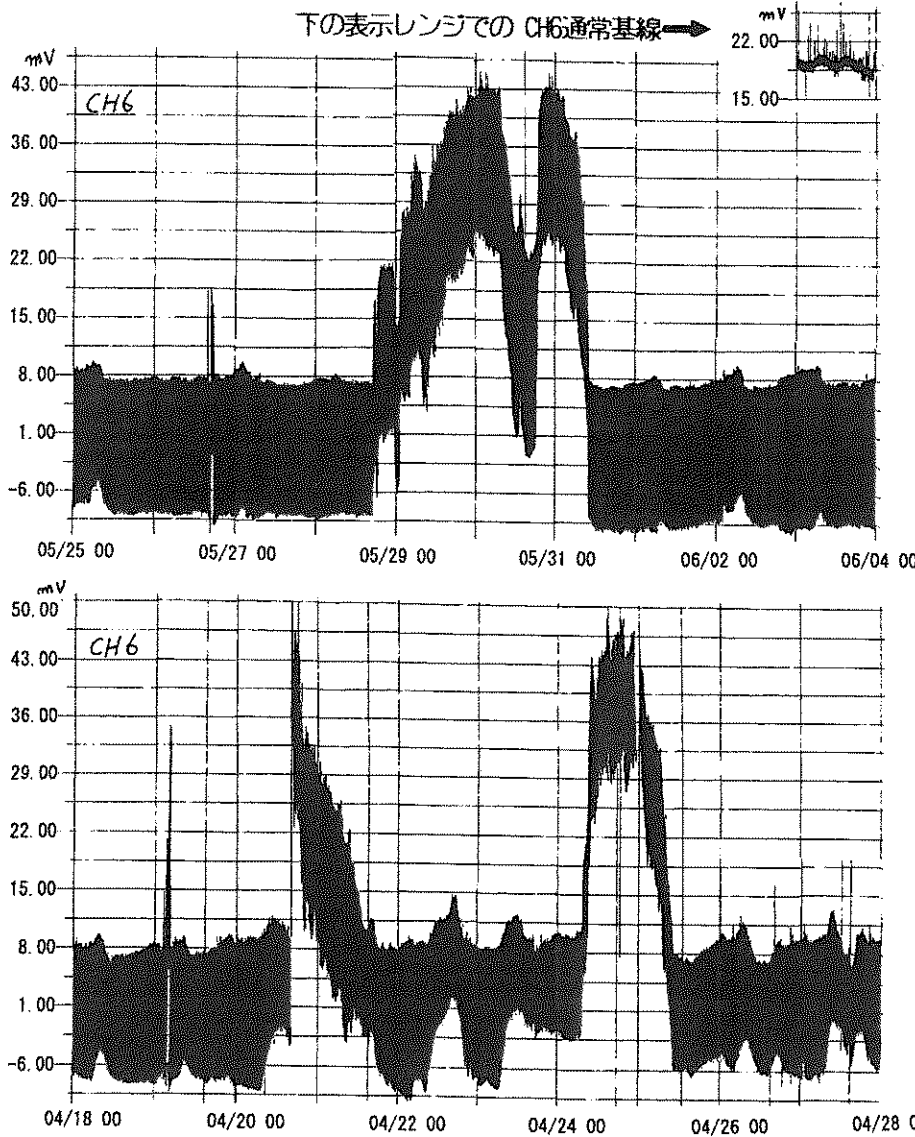
その結果、次頁掲載波形のとおり、大きな変化を示す時期が2箇所確認できました。（次頁へ続く）

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報

ステージ5 前兆群新認識 No.2392 観測情報の検証 8月上旬発生の可能性示唆される



CH6-特異変動は、通常基線幅電圧値の約15倍にも達する顕著な変動値変化で通常基線表示スケールでは振り切れてしまいます。

そこで、左波形のとおり、変動値スケールを大きく変えて、調査致しました。その結果、左波形のとおり、5/30±と、4/23前後の2箇所の時期に、極めて大きな変動変化が確認されました。

5/30時期は、CH12歯歯変動ツインピーク中心を極大と認識した極大時期と同じです。

また、4/23前後時期は、左下波形のとおり、4/20-21 と4/24-25 時期に2箇所大きなピークが見えます。これをツインピークと認識しますと、中心は4/23となり、CH17の極大と同じ日となります。

つまり、2/25, 2/26 と云う同様な時期から継続出現した、CH6 とCH17は、どちらも4/23に極大を形成すると云う、同じ変動を示していることが確認検証できました。

また更にCH6-特異には、5/30±にも極大が現れ、全体の極大の可能性のあるCH12歯歯前兆のツインピークの中心極大5/31とほぼ同じ5/30にも極大が認識でき、この時期の極大認識は正しいと云う検証ができましたので、ご報告させていただきます。

より以前より大きな変化なく特異状態が継続出現しているCH21は不明ですが、CH6, CH17は2/25~26初現~4/23極大の関係で出現し、8/5~7±を示す=① と云う前兆と、

A3A4は5/末 極大に対する先行特異、他の多数前兆は5/30-31 極大に対する前兆初現として出現し、8/5~7±を示す=② と云う2種の前兆が出現している様に見えます。

①の5/31極大は、CH12のツインピーク中心ですが、仮にCH12のツインピークとしてではなく、5/21=主極大、6/10=副極大と認識して主~副極大型経験則(主極大~副極大間=Tps 主極大~発生=Tmapとしたとき、Tmap:Tps=3.7:1~4:1)を使用して計算しますと、他と同様な 8/3±~8/9±時期を示します。

現在までの観測データからの前兆変化について、本解釈以外に良好に説明できる認識が現状他に見つかりません。但し、以

前の認識より、現在までの前兆変化を良く説明できている可能性があります。

但し、5/30-31 極大については、5/30と5/31の2通りの可能性、4/23極大に関しては2/25, 2/26 の2通りの初現から、各々発生推定時期が、8/5±と 8/7±の2種が出ます。今後要検討。

仮に本認識解釈が正しい場合には、CH6, CH17の4/23極大に対して=7/11±静穏化推定。その他の5/31極大に対しては=7/21±静穏化推定が計算されます。それ以前に前兆終息の可能性もありますが、第5ステージ前兆群変化が、今までの前兆群とは異なる変化と認識でき、現在が最終段階である可能性が否定できません。今後の変化を鑑み更に観測と検討を続けます。

※No.2317B前兆は